

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 23年 11月 15日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第4677500110号
法人名	社会福祉法人恵仁会
事業所名	グループホームあいら
所在地	鹿児島県鹿屋市吾平町5324-2 (電話) 0994-58-5539
自己評価作成日	平成23年11月15日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「地域の中で季節を感じながら、共に楽しく過ごしましょう」の理念の下、地域の方々との交流を日頃より心掛けて、行事や会に参加させて頂いている。又、自然豊かな場所なので、天気の良い日は散歩やドライブに出かけ、季節を感じて頂いたりしている。体調管理にも特に気をつけて、訪問看護師や主治医に報告、相談して病状の悪化のない様に力を入れている。職員は認知症や高齢者についての学習を勉強会や研修などで行なっている。認知症を理解し、その方自身を受容できるようにしている。

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/">http://www.wam.go.jp/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成23年12月19日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

鹿屋市街地から車で20分程の自然環境に恵まれた閑静な集落に建てられているグループホームである。すぐ近くには初詣で有名な吾平山稜や、キャンプ場もある大隅広域公園、物産館などがある。市街地からやや離れた地域ではあるが、事業所は孤立することなく日常的に地域住民との交流が行われており、奉仕作業の際にはホームをお茶の提供場所として利用してもらうなど、地域に溶け込んだグループホームである。また、運営推進会議が活かされており、家族も出来るだけ関わられるように積極的な参加の呼びかけを行い、会議の内容を充実させて、ヒヤリハット報告、アクシデント報告、ホームの取り組み、事例発表、情報交換、ホームができる地域貢献などが話し合われている。特にケアについての事例発表やヒヤリハット・アクシデント報告はホームの現状がわかり、認知症に対する家族や参加者の理解が得られ、協力がもらえるようになるなど活かされた内容となっている。また、地域の代表者からは地域と合同での夏祭りの提案が出るなど、次年度の開催に向けてこれからの課題となっている。

開設して9年が経ち、利用者の高齢化や重度化は現実問題であるが、出来るだけホームに閉じこもらない生活を支援して、両ユニットで協力しながら個別の外出支援や庭での日光浴など自然とふれあいながら、スローライフを楽しんでその人らしい暮らしを支援しているグループホームである。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスとしての理念を作り、各ユニットに掲示して、その理念を把握して、実践に努めている。	地域との交流の重要性を理解した理念を作成している。また、ケアプランにも反映させ、職員は理念の共有と実践に繋げている。理念は玄関やリビング、事務所に掲示している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事や奉仕作業などに参加したり、日頃より挨拶を交わしたりしている。	地域の奉仕作業の際に、ホームをお茶の提供場所として利用してもらい、利用者も交流の機会となるようにしている。また、地域の敬老会や十五夜への招待、近くの物産館での交流など利用者も地域とつながりながら暮らしている。保育園児や中学生との交流もある。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	地域運営推進会議などを通じて、認知症の人への理解や支援の方法を報告している。又、地域の方々と接する時もさりげなく会話の中に入れていく。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者への取り組みやアクシデント、ひやりハットの報告、事業所の抱える悩みなどを話し合ったりしている。	運営推進会議は2ヵ月に1回、地域の代表・家族・利用者・行政・職員などの出席を得て定期的に開催している。事例発表やホームの取り組み状況、ヒヤリハット・アクシデント報告、地域に向けてホームができることなどが話し合われている。参加者からはホームの現状が良く分ったと理解と協力が得られるようになり、会議が運営に活かされている。避難訓練後に行ったこともあり、参加者からの意見や助言をもらい、安全対策の話し合いも行われている。	

鹿児島県 グループホームあいら 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	情報提供や連絡など速やかに行なっている。	日頃より連携を図り、協力関係を築くように努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束をしない」事を前提に日頃よりケアを行なっている。身体拘束をしない為の方法など話し合っている。	重要事項説明書に「原則として身体拘束は行いません」と明記されている。また、毎月、職員全員で勉強会を行い、拘束のないケアに取り組んでいる。日中は施錠などせずに職員間の連携で安全で自由な生活を支援している	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会や研修会に参加して、全員が虐待についての知識を持ち、ケアの振り返りをして防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会や研修会に参加して、権利擁護について学んではいるが、実際、必要とされる方は現状ではない為活用、支援はしていない。		

鹿児島県 グループホームあいら 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は説明を行い、疑問点を尋ね、理解納得して頂いている。改定の際は、家族会などで説明し理解頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の言動から思いを察するように心掛け、家族の面会時などにはコミュニケーションを図り、意見や要望を伺っている。	重要事項説明書に第三者委員も明記して、外部者に表せる機会を設けている。また日頃より、家族が職員に対して意見などを表しやすい雰囲気作りに努めており、面会時や電話連絡の際に家族から意見、要望を聞き出すようにしている。また、家族交流会を行い、より信頼関係が結ばれるように努めている。利用者からは日常の会話の中で意見、要望を引き出すようにしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回の職員自己評価時の面接にて意見を聞く機会を設けている。また、いつでも意見を聞きながら、運営に反映させている。	毎月、全職員参加でミーティングを行い、意見交換や話し合いを行っている。また、職員は毎年今年度のテーマを掲げ、具体的な取り組み内容や自己評価をして質の向上に向けて取り組んでいる。レベルアップに向けた資格取得の支援も行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員自身の自己評価や管理者からみた職員の努力や実績を評価しているまた、資格取得すると資格に応じて手当がある。		

鹿児島県 グループホームあいら 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内の勉強会は必ず参加出来るように、勤務調整したり、外部の研修にも職員に合わせて、参加させている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会へ加入して研修参加し、積極的に意見交換をし、情報収集してよい所を学び、質の向上を心掛けている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用の相談があった時は、必ず本人と面会して、困っている事、要望、不安などを伺い、思いを受け止める様にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの困っている事、要望、不安等を伺い、思いを受け止め、話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今困っている事を伺い、相談窓口の紹介やサービスの内容説明を行なっている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の得意とする事を發揮してもらい場面や一緒に作業など行い、お互いを意識して生活できるようにしている。		

鹿児島県 グループホームあいら 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の思いや日頃の様子を伝えたり、家族の思いを聴いたりして一緒に考え支えあう様になっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅付近や自宅を訪問して、なじみの人との出会いの機会やいつでも面会を受け入れている。	地域出身の利用者は、地域の催し物に参加できるように支援している。また、お墓参りや自宅訪問など本人・家族の希望に応じて支援している。友人・知人が訪ねやすいように明るく、開放的なホームの雰囲気作りに配慮するなど、なじみの人や場との関係継続の支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性について職員が十分に把握して共同作業、食事づくりなど行なって関わり合いの場面を作っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ移られた方のお見舞いや様子伺いに行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の言葉や行動、しぐさや表情、日々の関わりの中から見えてくる状況を確認しながら思いを汲み取る様にしている。	何をするにも本人の意思確認をしてから行うように心がけている。会話の中から思いや意向を把握し、困難な場合は表情、言動、家族や関係者からの情報などから本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族より詳しく聞き取りをして把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リズムやペースを理解すると共に本人の出来る事、出来ない事、関わりの中で把握するようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の思いや家族の意向、職員からの意見など話し合いの中から、介護計画を作成している。	本人、家族の希望や思い、身体状況や生活歴などを把握し、職員の気づきや意見を出してもらい、それらを反映した本人本位の介護計画を作成している。また、個別支援（外出支援やなじみの関係継続、生活リハビリなど）を取り入れて、その人らしい暮らしを支援できるように工夫されている。毎月、モニタリングを行って、見直しの必要性を全職員で検討し、現状に即した介護計画を作成している。	

鹿児島県 グループホームあいら 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に介護日誌や受診記録している。職員間で情報共有したり、介護計画の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調悪化時など主治医、訪問看護師と連携を図り、医療へのサービスに繋げている。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの公園や物産館、市役所、交番、消防署などの協力を得ながら、支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望のかかりつけ医での受診を支援している。	利用者及び家族の希望を大事にして、かかりつけ医の受診や通院介助を支援している。また、緊急時など、協力医療機関や訪問看護ステーションとの連携が図られている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃より体調チェックを行い、気になる時には看護職員や訪問看護師に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時、病状の把握、入院期間の把握を行い、入院期間中も足を運び、状態把握し、病院関係者との情報交換を行なっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の指針についての説明を契約時及び重度化となった時にしている。その際、家族の意向を伺い、その様に支援している。	重度化や終末期に向けたホームの指針を契約時に説明し、事前確認書を作成している。また、重度化した場合に再度、意思確認を行っている。本人や家族の希望による看取りの経験もあり、職員も方針を共有してチームとして支援に取り組んでいる。また、訪問看護ステーションの看護師を中心とした勉強会や市の消防署が行っている救命救急の講習会にも参加して、職員は不安なく支援に取り組めるようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生法の訓練勉強会に参加したり事故発生時の対応についてミーティング時に話し合っている。		

鹿児島県 グループホームあいら 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回総合消防訓練を行なっている。また、毎月15日を自主訓練の日として防災について話し合いや懐中電気の点検を行なっている。</p>	<p>年2回の定期的な訓練と毎月自主訓練を行い、災害に対する意識を高めている。また、地域住民とは協力体制が話し合われており、ヘルメットを配布するなどしている。また、訓練後に運営推進会議を開催し、参加者からの意見や助言をもらい、今後の安全対策に活かしている。備蓄もあり、スプリンクラー、自動通報システムは設置済みである。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃より利用者のプライバシーやプライドを傷つけないような声かけを心掛けている。	生活歴や職歴などを念頭に置いて、個々に応じた声かけやプライドを損なわないような言葉かけに配慮しながら対応している。特にことばかけは命令口調にならないように問いかけることを心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	複数の選択肢の中から自己決定できるようにしたり、表情や行動で読み取るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の流れはあるが、体調やペースに合わせて生活出来るように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	毛染めや髪カットなど望むように支援している。いつも清潔な衣類を着て頂くようにしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人が出来る事を手伝って頂き、一緒に作ったり食について話したりして楽しみを持っていただいている。	個々の力量に応じて出来ることは職員と共に行っている。食材の調理方法や味見、餅つき、そばうちなど利用者に教わることもある。ときには、気分を換えて、外食や弁当持参でピクニックなどにも出かけている。また、献立は利用者の嗜好を聞きながら出来るだけ希望に添えるようにし、食べることへの楽しみとなるように支援している。	

鹿児島県 グループホームあいら 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べられる量、好み、病気による制限など一人一人に合わせている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアをしている。困難な方は口腔ティッシュにて拭いている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	食後必ず、トイレ誘導して、排便を促したり、そわそわやおなか回りをさすったりされる時には、トイレ誘導している。排便チェックにて排便日の予測をしてトイレ誘導している。	日中は職員のコマメな声かけ誘導によるトイレでの排せつを支援している。自立している利用者もおり、自立が継続できるように支援している	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食後のトイレ誘導(排便リズムの確認)水分、食物の摂取状況などの把握をして少ない時には摂取を勧めたりしている。腹部マッサージをしたりしている。		

鹿児島県 グループホームあいら 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	毎日入浴できる状態、いつでも入浴できる様に支援している。	毎日や一日おきなど個々の希望に応じた入浴の支援を行っている。ときには、足湯に出かけることもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中は活動して頂き、生活リズムを整えて、体調や本人のペースに合わせて休息して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診記録に処方薬の説明を添付していつでも薬の事が分かるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの方の力に合わせて役割を持ち、楽しみとされている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブや買い物など希望に添うように努めている。家族の協力で大阪まで同窓会に出かけられた方もあった。	日常的には散歩やドライブを兼ねた買い物などに出かけている。外出が困難な利用者も、できるだけホームに閉じこもらないように、庭に出て日光浴などができるように支援している。また、外食や地域の催し物見学、お弁当持参のピクニック、ぶどう狩り、いちご狩り、イルミネーション見学などに出かけている。また、時には遠出をして、鹿児島市内や鹿屋市での催し物見学にも出かけている。	

鹿児島県 グループホームあいら 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>本人の希望にて、所持して買い物の際使っている人もいます。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>荷物や手紙が届いた時に自ら、「電話したい」と言われることがあるので支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関、花壇に季節の花を植えたりしている。また、西日や夏の日差しよけにはすだれを掛けている。</p>	<p>ホーム全体が木のぬくもりと床暖房の自然の暖かさを感じられ、家庭的で生活感あふれる共用空間である。畳スペースはレクレーションやときには昼寝でも使われている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>各共有スペースにソファや椅子を置き、いつでもゆっくりと過ごせるようにしている。</p>		

鹿児島県 グループホームあいら 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時に本人使用のものを持ってきて頂き、家族も一緒に配置を決めたりしている。</p>	<p>入居の際に使い慣れたものやなじみの物品を持ち込んでもらえるように、家族に説明している。布団、加湿器、テレビ、仏壇、家族の写真、飾り物、読書好きな利用者の居室には机といすが持ち込まれて居心地良く過ごせるように配慮されている。床暖房のため、冬でも暖かく過ごせる居室である。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>トイレの場所がわかるように矢印や大きく赤く表示している。また、全体にバリアフリーになっている。廊下やトイレ、外の渡り通路にも手すりをつけている。</p>		

**V アウトカム項目**

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

鹿児島県 グループホームあいら 1ユニット

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

鹿児島県 グループホームあいら 1ユニット

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない